

# 不二速報



静岡：内線 2790  
 suu@jade.dti.ne.jp  
 浜松：内線 3910  
 suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp  
 組合 HP：  
<http://shizudai-union.net/>

発行日 2020年7月27日

第1号 2020年度執行部紹介【全教職員配布】

## 2020年度 組合執行委員です！

より良い職場環境の実現のために頑張ります。一年間よろしくお願い致します。

### 執行委員長 花方寿行（人文社会科学部支部）

今年度委員長を務めることになりました花方寿行（はながたかずゆき）です。昨年度の事務局長に引き続いての大役になりますが、よろしくお願い致します。

昨年度末から今年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大という未曾有の事態に直面し、組合活動も例年とは大きく形を変えて対応する必要に迫られました。4月初めに通常行われる新採用の教職員の方々に向けた組合活動の紹介・勧誘は中止を余儀なくされ、5月いっぱい緊急事態宣言を受けて授業のオンライン化、教職員の出勤7割減の要請と、大学で組合活動が行いにくい状態が続きました。従来4月か5月には発行されていたこの不二速報第1号の発行が7月にまでずれ込んだのは、このためです。6月には三密を避けるため、組合史上初めて、総会をメール審議で行いました。

この間静岡大学教職員組合執行部では、メール会議やオンライン会議などで、各種の対応について協議してまいりました。コロナウイルス対策をめぐるのは、要望や大学の対策に対する不満の声があることも承知していましたが、特に5月末までは状況やウイルスについての情報が刻々と変化する中、全大教からの情報と照らし合わせると静岡大学は比較的まっとうな対応を取ってきていたこと、出勤者削減と勤務量の増大を考えると、存在意義をアピールするために重複するような要求を出して職員の負担を増加させることは組合として好ましくないことを考え、団体交渉などの申し入れは控えてきました。

7月現在、首都圏などで不安な兆候はありますが、状況は全体的に改善され落ち着きを取り戻しつつあります。このため静岡大学教職員組合としても、現在第1回団体交渉の申し入れを行っている他、コロナウイルス対策や授業のオンライン化に伴う業務負担に対する教職員の声を吸い上げ、大学に対応を要求していくという活動を強化すべく、今後に向けた準備を進めています。

遅まきながらの挨拶になってしまいましたが、引き続きよろしくお願い致します。



### 副執行委員長 下村 勝（工学部支部）

今年度、副執行委員長（兼 支部委員）を担当させていただく事になりました工学部電子物質科学科の下村です。今回副執行委員長を引き受けるにあたり、現在の状況について改めて見直してみたところ、様々な解決すべき問題が残されていることを再認識しました。組合に参加してまだ経験は浅いですが、これまでに感じていた雇い止め等への問題意識を維持し、状況の改善を目指して努力していきたいと思っています。今年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響で、いろいろなイベントが状況を見ながら進められると思いますが、ポイントを絞って効率的な活動を心がけながら、執行委員の皆様、支部委員の皆様と共に、頑張っつて務めたいと考えております。ご迷惑をおかけする場面もあるかもしれませんが、1年間どうぞよろしくお願い致します。



6/9 学長選考会議議長あて「2020年度学長選考において、学長適任候補者意向投票を実施すること、またその結果を尊重して学長選考を行うこと」の申し入れを行いました。

7/20 「(1) コロナウイルス対策に関する方針について (2) 浜松医科大学との統合・再編問題について」の2点に絞って第1回団体交渉を行いました。詳細は改めてご報告いたします。

## 事務局長 赤田 信一（教育学部支部）

本年度、事務局長を務めさせていただくことになりました教育学部の赤田信一です。力不足で恐縮ではありますが、教職員の皆さま方からご指導いただきながら、少しでもお役に立てるよう努力して参りますので、一年間、どうぞよろしくお願い致します。

在職は27年目をむかえ、専門である学校健康教育の枠組み中で、子供たちが健康的で心豊かに成長できる学びの場の創出について研究しています。その知見を生かしながら、対象は異なりますが、私たち静岡大学で働く教職員が健康的で心の平穏が保たれる中、各自の能力を十分に発揮していくことができる職場環境づくりに、微力ながら励みたいと思います。健康・安全・安心・雇用の維持をキーワードにしながら、静岡大学教職員の労働者としての権利とプライドを守っていけるお手伝いができれば幸いです。

今年は選挙イヤー。私たち一人ひとりの多様な声が、静岡大学の未来を照らしていけるようになれば嬉しく思います。私たちの声が、静岡大学というブランドを育て、磨き、高めていく原動力になると思っています。爽やかな、風通しのよい職場が維持されるといいですね。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。



## 執行委員 岩井 淳（人文社会科学部支部）

本年度、執行委員を務めることになりました、人文社会科学部(社会学科)の岩井です。歴史学、とくに西洋近代史、イギリス史を専攻しています。静大の在籍は、かなり長く、これまで人文の支部長は経験しましたが、執行委員は初めてです。執行委員の一員として、皆さまのお役に立てればと思っています。

今年は、コロナの影響で組合活動はもちろん、学術活動や教育活動も全般的に停滞しており、このままでは静岡大学が築いてきた、民主主義の伝統が損なわれるのではないかと危惧しています。政府や地方自治体が主導する画一的な「新しい生活様式」とやらに飲み込まれないように気を付け、組合員・大学人の横のつながりを取り戻すことができればと考えます。どうぞ、よろしくお願い致します。



## 執行委員 水谷 洋一（人文社会科学部支部）

私は人文社会科学領域所属ですが、教育組織の主担当は地域創造学環です。専門は環境政策です。静岡大学に任用されたのは1992年度からですが、1981～85年度までは当時の人文学部経済学科の学生でしたので、この30年間の静岡大学の大きな変化と変わらぬカルチャーを少しは理解しているつもりです。教職員組合の活動やあり方も大きく変わったような気がします。

そんな中で自分が何ができるのか、何をすべきなのかを考える1年にしたいと思います。みなさま、よろしくお願い致します。



## 執行委員 本多 和仁（教育学部支部）

本年度の執行委員を務めることとなりました、教育学領域（理科教育）の本多和仁です。まだ組合員として日が浅いのですが、前年度は支部委員、本年度は執行委員を初めて務めます。わからないことが多いのですが、諸先輩方の話をうかがいながら自分に何ができるかを考えていきたいと思っています。専門は理科の物理学です。講義では電気や磁石の話をしています。小学校や中学校、高等学校で学んだことをしっかり思い出してもらうことが最も重要だと思い講義を組み立てています。しかし、せっかく大学で学ぶのだから、分野最先端からの視点を盛り込めたらと思っています。研究では、レーザーを使って原子を操作したり、原子のさまざまな量を精密に測定をしようとしています。最終的にはこの宇宙にある物質がたくさんできた理由を探ろうとしています。それでは、1年間よろしくお願い致します。



## 執行委員 村井 大介 (教育学部支部)

今年度、初めて執行委員を務めさせていただくことになりました、教育学部の村井大介です。静岡大学に赴任して、まだ3年程ですが、この間に、大学の自治、さらには学問の自由をどのようにして守るのかを考える機会に、度々、直面してきたように感じております。

専門は、社会科教育学で、ライフストーリー・インタビューを通して、教師の声から社会科教育の意義と方法を捉え直す研究を進めています。社会科教育を研究していることもあり、改めて労働者の権利を守り実現することの大切さを感じております。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により課題の多い一年になると存じます。まだまだ、分からないことが多々あり、色々ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、微力ながら少しでもお役に立てればと考えております。一年間、何卒、よろしくお願い申し上げます。



## 執行委員 立元 雄治 (工学部支部)

工学部支部からの執行委員となりました工学部化学バイオ工学科の立元雄治です。組合員歴だけは長く、執行委員はおそらく2回目です。役員になったとき以外はほとんど活動してきませんでした。執行委員会で定期大会の議案書についての議論がなされる中で、しだいに以前に執行委員を務めたときの記憶がよみがえってきました。お役に立てるように努めてまいりますので一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 執行委員 吉田 寛 (情報学部支部)

情報学部の吉田です。執行委員は2回目になります。

今回は組織法制を担当します。

私のいる西部キャンパスも近年は組合員減少の傾向が続いています。さらに、今年度は新型コロナ対応で、組合員同士も普段以上に分断されている状況です。また浜松医大との大学統合の件も、静大と組合の将来を大きく左右する大きな動きです。

こうした難しい状況ですが、現在の組合の活動を維持するとともに、先を考えて実効的な動きを作り出していくことが必要と考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



## お知らせ

### 2019年度「業務環境に関するアンケート」結果のご報告

はじめに

本年度末に組合として初めてオンラインによる「業務環境に関するアンケート」を実施させていただきました。みなさまのご協力、誠にありがとうございました。今回の質問内容や回答方法は紙ベースのアンケートを踏襲していたために質問数や記述量が多く、お手数をおかけいたしました。今後はオンラインのアンケート調査の回数を増やす代わりに、各回の回答時間が短くなるよう計画的に実施させていただく予定です。

以下、今回のアンケート結果の一部をご報告いたします。紙面の都合上、全ての結果をお示しすることは叶いませんが、改めて私たちが働く環境の現状をご確認いただければ幸いです。組合の組織率が低下しておりますが、職場環境に埋もれてしまいがちな声を届けることができるのは教職員組合に他なりません。働きやすい職場を作っていくためにも、お互いに助け合える場となるよう、教職員組合はこれからも邁進いたします。

主なプロフィール

回答者数 事務職員：12名 教員：20名 (計32名)

年齢構成

30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～54歳	55歳以上
3	6	6	6	11

◆ 事務職員の方々の回答 ◆

・5年前と比べて、現在の業務量をどのように感じますか？当てはまるもの一つを選択してください。なお、着任して5年未満の方は、着任当初と比較してご回答ください。

大幅に増えた	少し増えた	変わらない	少し減った	大幅に減った
2	3	6	0	1

回答いただいた方の半数は変化がなかったとのことでしたが、大幅に増えた方も半数近くいることが分かりました。業務量の回答理由には「回覧を紙で回すなど前近代的な業務スタイルが続いている」といった声などがありました。

- ・この1年間で、定常業務のために仕事を自宅などに何回持ち帰りましたか？（横軸）
- ・この1年間で、定常業務のために平均して何時間程度残業しましたか？（縦軸）

	なかった	月1~2回	月3~4回
ほとんどない	7	0	0
週10時間以内	1	1	2
週10~20時間	0	1	0

残業と持ち帰りのない方と、残業と持ち帰りのある方が分かれる結果となりました。多くの方が適正な業務量となるように、これからも職場環境の改善を呼びかけていきます。

◆ 教員の方々の回答 ◆

- ・この一年間の大学におけるあなたの勤務時間配分（研究、教育、管理運営、その他大学業務）についてどのように感じていますか？

課題がある	適正である
15	5

75%の方が勤務時間配分に課題を感じていることが分かりました。回答理由には「自身で時間配分できるため」適正であると回答いただいた方がいる一方、「教育負担が重すぎる」「学生の問題行動への対応に負担を感じる」「研究に費やす時間が確保されない」といった不満の声も挙がりました。

- ・あなたは22:00以降に大学で業務を行うことがありますか？

	人文社会科学	農学	理学	教育学	工学	情報学
ときどき行う	0	0	1	4	0	0
ごくたまに行う	1	0	1	2	1	0
行わない	2	0	2	1	1	2

今回の調査では「よく行う」との回答はありませんでしたが、「ときどき行う」の回答が理学部と教育学部に見られました。回答理由には「実験時間が長時間」「博士課程学生の研究相談」「教授の代わりに提出書類の作成」といった声が挙がりました。

◆ 教職員共通の回答 ◆

- ・振替休日の取得についてあなたはどのように感じていますか？（横軸）
- ・あなたは取得した振替休日に勤務したことがありますか？（縦軸）

	確実に取得できる	ある程度取得できる	あまり取得できない	ほとんど取得できない
ない	13（職:10、教:3）	0	1（職:1）	0
ある	3（職:1、教:2）	3（教:3）	8（教:8）	3（教:3）

振替休日の取得について、事務職員の方を中心に確実に取得できる方がおられる一方、希望する振替休日が取得できなかったり、取得しても勤務せざるを得なかったりする状況に置かれている方の存在が分かりました。意見として、「出張時の振替休日取得・割増賃金の支払いなどの労務管理が教員の自己申告に委ねられているので、真面目に管理をしてほしい」「夜間・休日勤務について教員側が裁量できる範囲を広げてほしい。でないと社会人教育やノントラディショナル学生への教育など絵に描いた餅になってしまう」や「休日出勤の振替は日程的に難しいので、たとえ安価でも手当ての方がありがたい」といった要望もありました。

教職員組合は職場環境の改善のため、「労働者おひとりおひとりのお声」を大切に関係各所へ届けて参ります。

静岡大学教職員組合も加盟している全大教（全国大学高専教職員組合）では、「新型コロナウイルス感染症への対応下での労働実態・教育研究状況アンケート」を実施しています。回答は組合員・未組合員問いませんので、ぜひご協力をお願いいたします。〆切は8月末です。

■教員回答フォーム <https://forms.gle/8S4M3jf9uDd1EA5a9>

■事務職員・技術職員回答フォーム <https://forms.gle/zgHek2o8tQfZ67P76>

よろしくお祈りします！

